

2023年度「林業遺産」が 選定されました

一般社団法人日本森林学会

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れながら、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始しました。11年目となった2023年度は、林業遺産地区推薦委員の協力を得ながら、深町加津枝林業遺産選定委員長（京都大学）を筆頭に、9名の選定委員によって選定を進め、2024年5月22日の日本森林学会定時総会において公表されました。同時に、認定証・記念品が所有者・管理者等に贈呈されました。

今回新たに選定されたのは、新潟県の「森林総合研究所十日町試験地の観測記録原簿および積雪観測用地下道」です。森林測候所のうち現存している唯一のもので、地下道は鉄の代わりに竹を使用した竹筋コンクリート製の非常にめずらしいものとなっています。十日町試験地WEB博物館（https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/tkmcs/tkmcs_webmuseum_j.html）が公開されており、オンラインで積雪研究の歴史をみることができるよう工夫されています。今回の選定を通じて各々の林業遺産が末長く記憶・記録され、あるいは発展していき、未来の社会を支える歴史の力となっていくことを願っています。



観測記録原簿



竹筋コンクリート製の地下道

登録番号	51
林業遺産名	森林総合研究所十日町試験地の観測記録原簿および積雪観測用地下道（しんりんそうごうけんきゅうしょとおかまちしけんちのかんそくきろくげんぽおよびせきせつかんそくようちかどう）
分類・形式	資料類・建造物
成立年代	1917（大正6）年：林業試験場十日町森林測候所 1938（昭和13）年：積雪観測用地下道
所在地	新潟県十日町市川原町614-9
所有・管理者	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
認定理由	森林測候所のうち存続している唯一の試験地であり、多雪地域の林業や山地の雪氷災害防止に大きな役割を果たしてきた施設と資料である。積雪観測用地下道は竹筋コンクリート製で社会情勢や技術の歴史を今に伝えている。

これまでに選定された林業遺産は雑誌「森林科学」や、森林学会のホームページでも公開されています。これまでに選定された林業遺産は51を数えました。いずれの林業遺産も将来にわたって記憶・記録していく価値が認められたものです。実際に足を運んでみてはいかがでしょうか。

林業遺産についての情報はこちら

<https://www.forestry.jp/forestryheritage/>

